

AJELC Newsletter

The Association for
Japanese and English Language and Culture

第68号 2025年3月31日

---目 次---					
巻頭言	嶋津 昌吾	1	第 87 回定例研究会報告	嶋津 昌吾	8
会長つれづれ考	小川 貴宏	2		行方 昭夫	9
第 19 回年次大会報告	金丸 敏幸	4	第 88 回定例研究会報告	浅田 幸善	11
	小川 貴宏	6	奥津文夫先生講演報告	奥津 文夫	12
第 86 回定例研究会報告	堀部 秀雄	7	事務局だより		16

英語教育におけるコミュニケーション能力育成教育のあり方をめぐって

嶋津 昌吾

近年、国際化の進展を背景に、異文化理解や英語によるコミュニケーション能力を求められる機会が増え、同時に学校教育に対する社会の期待や要求も増している。「日本人はなぜ英語でコミュニケーションができないのか」「中学校と高校で6年間英語学習をしても英語が全く使えるようにならない」という批判の矛先が英語科教員に向けられることも珍しくなく、教員に求められる知識・スキルがますます高度化している。

また、高等学校新学習指導要領においては、「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」という考え方が示されている。

さらに、平成 25 年度より学習指導要領が改定により、高等学校では英語の授業は英語で行うこととなり、外国語科の目標には「コミュニケーション能力の育成」とはっきりと示されている。まさに、高校英語教育は改革を求められており、現場の教員は、どのように生徒に「コミュニケーション能力」をつけさせるか、授業でどのように言語活動を創造しようと努力している。しかしながら、従来の知識やこれまでの自分自身の経験のみではなかなか対応できない現状がある。

このような状況の中、英語科教員に、応用言語学や第二言語習得に関して見聞を広げ、さらにコミュニケーション学の視点で「コミュニケーション」「コミュニケーション能力」「コミュニケーション意欲」について学び、コミュニケーション能力の情動的側面に着目し、自らの授業を考察することをお勧めしたい。これらの学びにより、英語科教員は、画一的なコミュニケーション能力の育成の難しさを再認識しつつ、コミュニケーション能力育成のあり方について示唆を得ることが期待される。さらには、学習者が自らコミュニケーションすることの醍醐味を見出せるような授業を創造し、英語教育の現場が抱える疑問点や問題点の解決に導くことができると考える

(文教大学非常勤講師)

会長つれづれ考

谷川俊太郎さんと Peanuts のことなど

小川 貴宏

少し前のことになるが、昨年（2024 年）11 月に詩人の谷川俊太郎さんが世界中に惜しまれながら逝去された。谷川さんに関しては本会の参与でいらっしゃる村田年先生も限定配信のメーリングリスト『ものぐさガーデニング』の 281 号（2025 年 1 月 13 日配信）で非常に興味深く書かれているが、私も遅ればせながら谷川さんを偲んでみたいと思う。

（私はもちろん面識はないが、拙文の中では親しみを込めて「谷川さん」と呼ばせていただこうと思う。）

私が初めて谷川さんのお名前を拝見したのは、学生時代、大学生協で Charles M. Schultz 氏の手によるコミック、Peanuts の 1 冊を手にとった時だった。多くの人には「あのスヌーピーの 4 コマ漫画」と言った方がわかりやすいかと思う。その後大人になってかなりの間、恥ずかしながら私は谷川さんのお仕事を翻訳家だと思っていた。（もちろん多彩な活動をされている方でそれは間違っていないのだが...。）

私はてっきり谷川さんは自分と同じように、大学で英語を専攻された方だと思っていたが、村田先生も書かれているように谷川さんは大学を出られていない。もちろん、氏は旧制中学校を出られており、哲学者で法政大学長を務められた谷川徹三氏のご子息であることを考えると、私なぞより（英語も含め）ずっと十分な教育を受けられたことは間違いないし、専門教育を受けたかどうかは関係なく、谷川さんの並外れた才能があの Peanuts のすばらしい翻訳を生み出したことは間違いないだろう。

Peanuts に関して言えば、私は件の生協で出会った際にすぐさま同書を買求め（たまたまその時の新刊だったのだろう、その刊だけ置いてあった記憶がある）、何度も読み返

し、大学の教員になってからも横須賀→吉祥寺（旧館→新館）と大学の研究室は引っ越しでもずっと連れてきて、今も座右にある。昔のペーパーバックの紙質なので、紙面は黄色を通り越して茶色になっているが、大学時代これで英語に親しんだ思い出もあるのでこの本はずっと持っていたいと思っている。

奥付を見ると発行はツル・コミック社、Printed in Japan 1976 とあり、©1965,1966, ... 1974 by United Feature Syndicate と書かれている。

ツル・コミック社は元々鶴書房と言っていた出版社が、Peanuts などが売れたことを機に社名変更されたものだそうだが、惜しくも 1979 年に閉業されている。以降は Peanuts 関連のコミックスなどは、角川書店、河出書房新社をはじめ他の出版社から様々な版で出されている。原作者の Schultz 氏は 2000 年、Peanuts の最終回が配信される前日に亡くなっているが、同作は 1950 年から実に半世紀にわたって氏によって描かれ、谷川さんはその世界的な名作コンテンツを 1967 年から 2020 年までの 50 年以上にわたり、全作品 17,897 編をお一人で翻訳されたとのこと。これは金字塔と言って間違いない偉業である。

谷川さんの手による Peanuts の翻訳は本当に自然でこなれていて、原作の面白さを十二分に伝えるもので、Peanuts の作品の多くが原作の英語も併記されていることを考えると、我々英語好きの者にとっては日本版の同作品は 2 倍楽しめるものになっている。Schultz 氏のこの作品はもちろんその時代の社会を反映している部分や、スヌーピーやチャーリーブラウンとその仲間たちを描きながら、時代時代の大人たちの社会を子供たちのやりとりやスヌーピーたちのモノローグによって反映したものでもあるが、今 40 年近く前に買ったものを読み返してみても全く古さを感じさせず楽しめる、timeless な作品となっている。もしかしたら以前に書かれたものは現代の基準では PC やコンプライアンスに引っかかるものもあるかもしれないが、全体的に物議を醸すような(explicit な)内容は皆無で、日本で言うと『サザエさん』や『ドラえもん』のように大人も子供も安心して楽しめる内容である。Peanuts はスピノフとしての絵本なども出されており、アニメもあって YouTube で日本語版・英語版が（自動生成ではあるが字幕もつけて）無料で見られる。もちろんスヌーピーを中心としたキャラクターグッズや、また 4 コマ漫画をあしらったカレンダーなども出されていて、毎日、また毎週新しい Peanuts のキャラクターに会いスヌーピーたちと暮らすことができる。

Peanuts を feature した英語学習本や大学の英語教科書も数多く出されている。私も授業の 1 教材として Peanuts の 4 コマ漫画を扱ったこともある。一方で、私自身が英語やアメリカ文化、アメリカ人のものの考え方などを学ぶ格好教材でもある。もちろん、教材として以前にコンテンツとしての魅力があるからこそ Peanuts のキャラクターやストーリーに触れる喜びがあるのである。

谷川さんの最後の翻訳は、シュルツ氏描き下ろしの絵本、『クリスマスはいっしょのじかん（スヌーピーえほん）』と『しあわせはあったかい子犬（スヌーピーえほん）』（そ

れぞれ河出書房新社、2024 年刊) だそうだ。後者の表紙でルーシーがスヌーピーを抱きしめているイラストが、一連の Peanuts の魅力を余すところなく物語っているように思う。

私は今の勤務先に着任した当初、図書館にお願いして Peanuts 全集（当時出版されているところまで）を入れてもらった。自分で入れておきながらこれまで 15 年間、学務に追われてなかなか読む時間がなかったが、私も定年までのあと 3 年少しでできるだけ Peanuts の作品と谷川さんの名訳に触れていきたいと思っている。

(成蹊大学教授)

第 19 回年次大会報告

2023 年 12 月 9 日（土）14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

基 調 講 演

生成 AI 時代に英語教育が果たすべき役割 ー異文化理解に生成 AI は役立つのか？ー

金丸 敏幸

2022 年 11 月末に、OpenAI 社が ChatGPT を発表して 1 年半が経過した。その登場によって、日本だけでなく、世界中に一大生成 AI ブームが巻き起こった。ChatGPT の発表から現在までの間にも様々な生成 AI のモデルが登場し、OpenAI も 2024 年 5 月 13 日に ChatGPT-4 Omni という新しいバージョンを発表している。新しい GPT-4 Omni は、これまでテキスト（文字）主体であったやり取りから、画像や音声といったマルチモーダル（複数の感覚）を扱うことができるモデルへと進化し、音声でのやり取りも可能となる。

実用的な生成 AI の登場によって、産業界以上に影響を受けていると見られるのが、教育界である。当初、世界的には教育に生成 AI を導入することに対して否定的な立場が目立った。たとえば、ニューヨーク市やケンブリッジ大学、オックスフォード大学などは、当初、教育での生成 AI の使用を禁止していた(Rozenzweig-Ziff, 2023; Wood, 2023)。そのような中、日本は比較的早くから生成 AI の活用に目を向けており、2023 年 7 月には文部科学省が生成 AI の利用についてガイドラインを発表している(文部科学省, 2023)。現在、多くの大学で生成 AI の利用についての方針やガイドラインを公表しているが、全体的な傾向として、利用

を禁止することはしないものの、その利用について十分に注意すべきであると述べるに留まっているところが多い。海外では禁止から積極的導入へ舵を切るところもある。

大学教育において、とくに影響を受けると見られているのが、プログラミングと英語（外国語）の科目である。生成 AI と英語の関係については、プログラミングよりも少し状況が複雑である。生成 AI は、これまで難易度が高いとされてきた日本語の曖昧な文章を、文脈に応じたり、背景を推測したりして、これまでより正確に英語へ翻訳することが可能となっている。それだけでなく、言い換えや要約、さらには英文の校正や添削も行うことができる。そのため、従来から行われてきた英語授業が成立しなくなるという懸念の声も聞かれる。

このような状況において、英語授業に生成 AI を積極的に活用する取り組みを行う大学もある。たとえば立命館大学では、プロジェクト型の英語授業に AI 技術を取り入れることによって、アウトプットの精度を高めることを目指している(山中他, 2023)。他方、生成 AI を積極的に活用する英語教員の間では、生成 AI の活用に関する実践的知識が蓄積されてきている。今後、生成 AI の技術を活用することは、日本の大学にとっても国際化を推し進める大きな助けになると考えられる。大学では生成 AI によって言葉の壁を低くすることで国際的な発信を高め、人材交流を盛んにすることが求められるようになるであろう。学生にとっても、生成 AI 時代に適応した英語力を身につけることが、ポストコロナ時代の国際化時代を生き残るために必要とされるかもしれない。

本講演では、生成 AI の仕組みからはじめ、生成 AI を活用した英語教育の実践を紹介し、これからの英語教育が果たすべき役割について検討したい。

参考文献

- 文部科学省. (2023). 「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）」, https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf
- Rozenzweig-Ziff, D. (2023). “New York City Blocks use of the ChatGPT bot in its schools,” <https://www.washingtonpost.com/education/2023/01/05/nyc-schools-ban-chatgpt/>
- Wood, P. (2023). “Oxford and Cambridge ban ChatGPT over plagiarism fears but other universities choose to embrace AI bot,” <https://inews.co.uk/news/oxford-cambridge-ban-chatgpt-plagiarism-universities-2178391>
- 山中司(編). (2023). 『AI・機械翻訳と英語学習』, 朝日出版社.

(京都大学准教授)

ミニ講演**さまざまなテキストで生成 AI・オンライン翻訳サイトの翻訳力を考える****小川 貴宏**

古くから研究・開発されてきた「機械翻訳」は、特に近年の学習ベースの AI の活用によって長足の進歩を遂げてきている。それに伴い、昨今ではその成果の一部が無料で開放される形で Web 上で無料で利用できる実用的な翻訳サービスがいくつも存在し、中でも広く利用されている例として Google 翻訳、DeepL などがある。また、無料で利用できる生成 AI である ChatGPT も、同様の翻訳ツールとして利用可能である。今回は、こうした誰もが「無料で」利用できるツールに焦点を当て、様々なジャンルやスタイル、媒体 (written/spoken) の英文を素材として、3つのツール (Google 翻訳、DeepL, ChatGPT) によって生み出される日本語の訳文にどのような違いや特徴があるかを実験的に比較してみた。

本研究で用いた試料には以下のようなものが含まれる。①『ジャパントイムズ社説集 2023』より、坂本龍一氏を追悼する英文エッセイの一部 ②同書より、国際関係を扱った社説の英文の一部 ③大学の TOEFL 対策用英語教科書より、「超超新星(super supernovae)」を扱った理系 (天文学) の英文の一部 ④映画 Love Actually のせりふのスク립トの一部 ⑤海外の YouTuber による、surprise prank の動画内の発言の一部。特に①、②に関してはそれぞれの英文の訳注を今回の講演者自らが直接担当しており、出版社に提出した原稿における筆者の「試訳」とも比較を試みる。①～⑤とも、たとえば英字新聞の通常のベタ記事などとは少し違った、特徴を持った文章を敢えて素材とした。

それぞれの素材の翻訳において、着目すべき点の一例として以下のようなものがある。①においては、対象となる坂本龍一氏の「人となり」や業績などを踏まえた内容などが適切に訳に反映されるか。②においては、国際関係における事実や社説に見られる複雑な構造が正確に訳文に反映されているか。③においては、理系の事象が正確に訳文に反映されているか、また複雑な内容が明確な訳文として出力されているか。④においては、会話において省略された部分が正確に再現されているか、また会話として自然な文体になっているか。⑤においては、ジョークや言い間違いなどが訳文に反映されているか。これらのほかに、講演者が数年前に試したところでは、特に Google 翻訳や DeepL において、入力した英文の一部が翻訳されずにスキップされることがしばしばあった。今回の検証でも同様のことがあるかどうか併せて確認した。

具体的な翻訳結果は講演内で例示するが、今回の検証を通じ、「無料」で利用できるリソースとしては、3つのツールはかなりの洗練(sophistication)を実現しているが、同時に人間の翻訳者がその個性を出せる余地も残していることが見て取れた。英語教育に携わる者と

しては、こうした翻訳ツールは非常に有効なリソースになると同時に、英語学習の意味を学習者に問い直させるきっかけともなりうるので、うかく付き合い活用していく必要がある。

(成蹊大学教授)

*奥津文夫先生の講演要旨は4回分まとめてp.12以降に掲載いたします。

第86回定例研究会報告

2024年9月14日(土) 14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

講演

「日本的なもの」は英語でどう表現されうるか？ —Seidenstickerの翻訳方略を中心に—

堀部 秀雄

「日本的なもの」 — 日本文化において特徴的な事物・事象、概念、あるいは日本語の特徴的な言い回しなど — は英語でどのように表現できるか。例えば、「袴」や「羽織」、「甘え」や「義理」を英語ではどう言えばいいだろうか。このような問題を考える大きな手掛かりは、日本文学の翻訳の中に求められよう。日本の文豪たち、例えば夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫等の小説の多くが、英米の日本文学研究家・翻訳家たちによって英訳されており、これらの翻訳作品においては、そのままでは英語になりにくい日本語、言い換えれば「英訳に強く抵抗する日本語」が、様々な技巧・工夫を通して表現されており、またそこにはしばしば大胆な発想の転換も見られ、辞書などで調べるだけでは到底得られない貴重な範例と示唆を与えてくれるものである。

本発表では、日本文学の英訳において顕著な業績を残した翻訳家の一人、Edward G. Seidensticker の訳文を中心に上げ、その翻訳方略を検討する。彼の文体は一言で言って、簡潔・明瞭であり、名訳と言われることが多いその高い評価は、英語圏の読者にとってなじみのない言語文化的要素をできるだけ避けて、自然で流れるような英文を産出する翻訳方略に負うところが大きいと考えられる。原文の異質性を尊重する「異質化」と訳文としての

自然さを重視する「同化」を二項対立とする翻訳方略理論を参照するならば、彼の翻訳は「同化」の傾向が明らかであると言える。

実際 Seidensticker は原文のエッセンスを驚掴みにして、それをさらりと平易な英語で表現することが実に巧みであり、「日本的なもの」をどのように分かりやすく、そして英語らしく表現するかを考えるための格好のお手本を示してくれる。このような訳例は、細部に拘泥せず、最も伝えたいことを要領よく伝えるための、いわゆるコミュニケーション方略の観点からも学ぶところの多いものであろう。しかし一方、このことは、彼の翻訳が、英語としての読みやすさを優先するがゆえに、文化的特徴を抽象化・一般化したり、もしくは簡略化したり、また日本的物事を英語文化における類似物に置き換えたりする強い傾向を持っていることを意味しており、「異文化を伝える」ことを翻訳の一つの大きな目標として重視するならば、このような傾向は批判的に見られるかもしれない。

本発表はまた、なぜ Seidensticker がこのような翻訳方略を多用したのかという点にも注意を向ける。大きく捉えれば「同化」は英米の主流であるが、主な理由は、装飾の少ない淡泊な表現を好む彼の文学者としての気質にあると私は考える。このような気質は川端康成と三島由紀夫の作品に対する彼の姿勢に端的に表れており、この点から原作者と翻訳者の「相性」の問題についても考えてみたい。

本発表が、AI がますます進化する中で、人間にしかできない翻訳とは何か、また「文化の翻訳」はどこまで可能かという問題を再考する何らかのヒントになれば幸いである。

(広島工業大学名誉教授)

第 87 回定例研究会報告

2024 年 12 月 14 日 (土) 14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

研究発表

「タスク中心教授法の高校英語教育への応用と実践」

－ 高校英語グローバルコミュニケーションの授業にタスク教授法を取り入れて－

嶋津 昌吾

今回のプレゼンテーションは高等学校の学校設定科目におけるグローバルコミュニケーションの指導計画についてである。この指導計画では映画を教材として用い、タスク中心教授法を取り入れた。グローバルコミュニケーションの授業では主にコミュニケーション能

力育成に重点が置かれている。生徒のニーズを分析すると彼らは、英語の勉強はあまり好きではないものの、映画を鑑賞し英語を聞き取り理解したいという気持ちが強いことが分かった。最初にクラス背景と講座全体の学習目標の説明、次に指導計画作成の根拠と指導法の基本的な考え方を含めた講座の指導方針について概説する。最後に、高等学校英語科の授業において映画を用いたタスク中心教授法がどのように行われるかを紹介し、今回の単元の指導目標や指導過程について詳しく説明したい。

講演

モームの短編『赤毛』の読み方の変化

行方 昭夫

文学作品の読み方の変化

『ヴェニス商人』は16世紀には、観客はシャイロックを嫌い、裁判に負けると、「いい気味だ」と罵声を浴びせた。18世紀末から19世紀にかけては、彼に同情的な態度へと変化し、20世紀には、彼を人種差別の犠牲者として演出するのが普通になった。作者の意図。

モームの『赤毛』 一読者としての行方昭夫が年齢に応じて読み方がどう変化したか。

要旨 南海のサモア諸島のある島に住むスウェーデン人のインテリ、ニールソンのバンガローに、アメリカ帆船の肥満した船長が訪問。ニールソンは身の上話をする。母国で25年まえに肺結核にかかり、1年の余命だと知り、南海に来た。土地の不思議な魅力に惹かれて住み始めた。白人の美青年レッドと土地の美少女シリーとが激しく愛し合った場所だと知る。

作品の前半で、レッドとシリーの愛と別離の抒情的な物話をニールソンは情熱的に語る。二人が美形というだけでなく、舞台がロマンチックである。サンゴ礁、白浜にそよぐ椰子、乱舞する熱帯魚、紺碧の青空。

ニールソンが島に来た時、レッドが強引に連れ去れてから3年経っていたが、シリーは悲嘆にくれながらも愛人が戻るのを待ち続けている。彼女のプシュケー像に似た美貌と「黒く大きな目に浮かぶ悲しみの色」に魅せられたニールソンは求愛するが、拒否される。村人の説得もあって、娘は結婚に同意するが、心では彼を受け入れない。ニールソン

は怒るけれど次第に諦めの境地に達し、まだレッドを忘れぬシリーと暮している。20 年が経ったある日、船長が訪ねてきた。

皮肉な結末で、船長がレッドだったと判明。シリーは船長を見ても、彼だと気づかない。ニールソンは驚愕し、同時に裏切られた気がしてならない。

19 歳、最初に読んだ時。海外旅行が夢の時代だった。ただただロマンチックな恋物語だと思った。「南海の孤島を背景にした牧歌的な、また夢幻的な美しい物語で、映画の脚本にそのまま使えそうである」（荒牧）、「**南海の島々という分かり易い舞台で明々白々なラヴロマンスが展開され、しかもそれが実に分かり易い明晰な英語で語られるのである**」（青野）

中年。モーム作品をいくつも読み、彼が恋愛賛美者でないと知った。何度も『レッド』全体を読むと、無視していた後半部が気になりだした。恋物語の語り手であるニールソンに注目。サリーに恋する準主役でもある。恋を賛美した彼が、誤解に気づき、幻滅を味合う物語として読むのが、作者の意図だと思うようになった。前半の恋の美しさが強調されているのは、後半での幻滅の劇的効果を高めるための策略かもしれぬ。報いられぬ恋の悲劇。

晩年。「全面的な真実」（オールダス・ハクスレー）を描く作家の一人。前半の恋愛の美しさも、後半の恋の惨めさ、失望も、共に人生人間にあって真実。モーム自身は相思相愛を経験しなかったが、出来ればしたかった。イソップ物語の「酸っぱいブドウ」の狐。ブドウに憧れているくせに、自分に入手不能と気づくと、ケチをつける狐。内奥に憧れも存続させている狐。それがモームだ。

（東京大学・東洋学園大学名誉教授）

第 88 回定例研究会報告

2024 年 3 月 9 日 (土) 14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

講 演

ハウスは house か？ ーオランダ語辞典の作られ方と借用語の話ー

浅田 幸善

I オランダ語学習と蘭日・蘭和辞書

① 蘭学の時代

ハルマ和解 (江戸ハルマ) = 日本最初の蘭和辞書、「長崎ハルマ」
オランダ語からの翻訳事情 (→IIIにもつながる)
「解体新書」

福沢諭吉の場合 (蘭学から英学へ)

② 昭和・平成の蘭和辞典

蘭和大辞典・講談社オランダ語辞典・(朝倉) オランダ語辞典
「大辞典 (1943)」の歴史的背景
「講談社 (1994)」

II オランダ語辞典の作られ方

「講談社オランダ語辞典」の場合 (底本をどう活かしたか、プラス情報は?)
蘭英辞典とオランダ語辞典を並べて見る

III 借用語 (loanwords, borrowings, calque (leenvertaling))の話

今も生きているオランダ語 (翻訳語も)

オランダ語←→英語の借用語

外来語(phonological loanwords?)の取り入れ方

loan translation (calque)

semantic translation

和製英語; 通じない「英語」

本家との表現・意味のズレ

短縮 (単語、複合語)

日本語→英語 (karaoke, tempura, anime, cosplay ...)

ポ tempero>天ぷら>英 tempura

英 animation>アニメーション>アニメ>英 anime

で、ハウスは house?

奥津文夫先生（和洋女子大学名誉教授・本学会名誉会長）講演

2024 年 6 月 8 日（土）第 19 回年次大会（於：成蹊大学）

2024 年 9 月 14 日（土）第 86 回定例研究会（於：成蹊大学）

2024 年 12 月 14 日（土）（於：成蹊大学）

2025 年 3 月 12 日（土）（於：和洋女子大学九段キャンパス）

2024 年度より、本学会名誉会長の奥津文夫先生に毎回、小講演をしていただいています。4 回分の要旨をお届けいたします。

日英のことばと文化（１）一雨と傘について

＜基本事項＞

日本人―自然と調和し、自然と共に生きる。（日本人の美しい情緒と感性の源）

欧米人―自然は人類の幸福のために征服すべき対象。 自然を征服した所に文明がある。

（欧米人の精神構造は「対立」に基づいている

Cf. 「古池や蛙飛び込む水の音」 「親と月夜はいつもよい」 「きれいな月ですね」

＜雨と傘について＞

日本人―毎日天候を気にして生活（「天気予報」「本日は晴天なり」）

雨の種類―春雨、五月雨、夕立、通り雨、時雨、菜種梅雨、狐の嫁入り（40 以上ある）

「雨天順延」―In case of rain, ~will be put off until the next fine day

「晴耕雨読」―~live working in the fields on fine days and reading books on rainy days

「雨男」―a man whose presence seems to cause rain

* 英国では多く shower, 天候は unpredictable, 「1 日の中に四季がある」

雨が降ってきてすぐ傘をさすのは野暮、walk trying to dodge between the drops
(ロンドンでは 18 世紀半ばまで雨傘をさす人はいなかった)―雨傘をさすのは奇人

欧州では傘は女性の日傘として発達したもの。日よけの道具 (parasol)

日本人は傘をさすのが好きで得意。―「雨の日に傘をさして、片手で自転車に乗っている。しかも前と後ろに子供を乗せている人もいる。日本人は皆サーカスの芸人ですか？」

日本人は折りたたみ傘が好き―「縮み」思考の日本文化―「どうも、さよなら、今日は」

俳句、扇子、仏壇、折詰弁当、おにぎり、盆栽、生け花、正座（茶道から）

<ことわざ>

(日) 「雨降って地固まる」 「雨垂れ石を穿つ」 — 「雨」 に対して好意的

(英) It never rains but it pours. (降れば土砂降り—悪い事が重なること多し)

<日本の歌謡曲> 雨に感ずる情緒

「雨」 「雨が止んだら」 「雨酒場」 「雨のエアポート」 「雨の銀座」

「雨の慕情」 (八代亜紀) — 「雨々ふれふれもっとふれ私のいい人つれて来い」

日英のことばと文化(2) — 否定表現と肯定表現 (謙遜志向と対等志向: 東西の人生観)

1) 日常語—— 有難う、すみません、さよなら (全部否定表現)

何もありませんが There is nothing to eat ,but please eat the next room.

2) 謙譲表現 (自己滅却の文化と自己主張の文化、農耕民族と狩猟民族)

「つまらないものですが」 「粗茶ですが」 「宜しくお願いします」 「お陰様で」

「ふつつかな娘ですが」 「愚息、愚妻」 「末席を汚しています」 「恐縮です」

「お茶が入りました」 「結婚することになりました」 (「する」と「なる」の文化)

3) 日英表現比較

「父は6時過ぎなければ帰りません」 Father will come home after six.

「暗くならないうちに」 before dark 「私にはこれしかできません」 This is all I can.

「人に頼るな」 Rely on yourself. 「何か質問ありませんか」 Do you have any questions?

「何が起こるか分かったもんじゃない」 Anything can happen.

「あのひとだけは絶対結婚したくない」 He is the last man I want to marry.

「己の欲せざる所人に施すなかれ」 Do to others as you would be done by.

「あんたなんか嫌い」 I love you dearly. 「好き！」 cf. S+V+O

4) 「哀しみ」は古来日本の感情の中心をなすものであった。「恋」は「弧悲」と書いた。

仏教では哀しみと苦しみが人間に最も重要な感性であった。

「貧しき者(哀しみ深き人) 汝は天国に近い」

5) 「喜劇」よりも「悲劇」を好み、演歌は「北」「雪国」を目指し、「雨」を歌う。

* 「北国」や「雪国」のイメージは哀しみの感性をかき立て、「梅雨」という季節は
恋愛の感性と深く結びついている。「酒」も。戦後のヒット曲「悲しい酒」

日本人は悲しみの感性を笑顔で表現した。 Cf. Japanese smile (L.Hearn)

6) 無常観(世のはかなさ) 「さよなら」— 力及ばない切なさ cf. Good Bye, Adieu

7) 切腹— 日本人のマイナス的思考様式の代表 (三島由紀夫が考えた美の頂点)

8) 私の体験談

(日本で) 「痛くありませんか？」 Freeze! (止まれ)

(米国で) Save! (消すな) Cigarettes Only! (葉巻ご遠慮下さい)

Help yourself. (自由にお取り下さい) Come back! (またのご来店を!)

Goodbye, Dad! (お父さん行ってらっしゃい) To go?

日英のことばと文化(3) 一日英のことわざ・慣用句の比較から 見た日本語の情緒・文学性と英語の直截・論理性

* 日本のことわざと慣用句は一般庶民の作品であり、日本人の生活、感性や心情を表したものであり、その表現は日本語の特質を如実に表している。

* ことわざは民族の知恵の結晶であり、文化の濃縮された一滴とも言える。現代に生きる重要な言語文化である。

* 慣用句は習慣的に 2 つ以上の語が結合した形で使われ、全体である特定の意味を表す言い回し。「腹を割る」「油をしばる(売る)」 kick the bucket bury the hatchet

* ことわざと慣用句は区別し難い場合もある。

「雀の涙」—「鬼の目にも涙」 burst into tears—crocodile tears

1) 直截的・論理的な英語のことわざ—情緒的・文学的な日本のことわざ

Seeing is believing.—「百聞は一見に如かず」

Necessity knows no law.—「背に腹は代えられぬ」「出物腫物所嫌わず」

Love laughs at distance.—「惚れて通えば千里も一里」

The best of friends must part.—「きぬぎぬ(衣衣、後朝)の別れ」

2) 自然に関するもの(木々、草々、月、雪、山川) cf. 徳富蘆花「春の悲哀」

* 自然は人間が征服すべきもの—対立の文化と融合・調和の文化

* 夏目漱石が英語に訳し難い日本語として挙げた語「風流」

—富や名誉などの世俗を超越した自然の享楽

Tomorrow never comes.—「明日ありと思う心の仇桜」

Pride will have a fall.—「花は移ろい月は傾く世の習い」

Good wine needs no bush.—「桃李もの言わざれども下自ずから蹊を成す」

Lovers' quarrels are soon mended.—「夫婦喧嘩と春の雪は消えやすい」

3) 小動物に関するもの(小さき命にも心を砕く優しさと感性) cf. 虫の声

He bears misery best that hides it most.—「鳴く蟬よりも鳴かぬ蜚が身を焦がす」

He has no ink in his pen.—「月夜の蟹」

Don't wear out your welcome.—「客と白鷺は立ったが見事」

Tastes differ. — 「蓼食う虫も好きずき」

* 日本は世界で詩人が最も多い国（鈴木孝夫氏）

日英のことばと文化（４）—季節感と成句

* 日本には四季があり多くの季節に関する言葉（季語など）がある。

春—山笑う、春の目覚め、陽炎、弥生、春愁、立春、啓蟄、思春期

夏—風待月、蟬時雨、空蟬、夏炉冬扇 秋—色取月、木枯らし 冬—三寒四温

* 日本人は秋が好き—味覚の秋、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋

* 秋の味覚には殆どことわざや成句ができています、

柿、蜜柑—柿が赤くなると（蜜柑が黄色くなると）医者が青くなる。

茄子（鱈）—秋茄子（鱈）嫁に食わすな。

松茸—学者と松茸は山の奥にできる。

秋刀魚—秋刀魚が出ると按摩が引っ込む。 * 栗—火中の栗を拾う。

* 英語のことわざと、もじったもの

An apple a day keeps a doctor away. (An onion a day keeps everybody away.)

A pill a day keeps the stork away. A compliment a day keeps divorce far away.

* If winter comes, can spring be far behind. (P.B.Shelley)

* 英国人は食べることも芸術、文化を楽しむ。 Eat to live, not live to eat.

（英国の国立博物館、美術館などは入場無料、British Museum も）

事務局 だより

1. 事務局メールアドレス変更について

事務局のメールアドレスを変更いたしました。新しいアドレスは
ajelcoffice@gmail.com
です。よろしくお願いいたします。

2. Newsletter 発行回数について

Newsletter の発行を年 2 回としておりましたが、2024 年度より年 1 回とさせていただきます。1 年間の学会活動を報告する形での発行となります。よろしくお願いいたします。

3. 会費納入・名簿整理について (重要)

会費の納入をお願いいたします。本学会では会費納入は銀行振り込みに限らせていただいております。なお、お振込みにかかる手数料は会員のご負担になりますので、ご了承ください。お振込み時に発行される「控」が領収書に代わるものとなりますので、改めて領収書は発行いたしません。研究費処理などで問題が生じた場合には、本学会 HP の「会則」第 5 条をご覧ください。幸いです。

https://www.ajelc-academic.com/_files/ugd/68b70d_9f40b98972a54732a8a636ce07312f0e.pdf

書面での領収書が必要な場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

一般会員 4,000 円
学生会員 1,000 円 (院生を含む)
賛助会員 8,000 円

銀行口座：三菱 UFJ 銀行
国分寺支店 普通 0132870
口座名：日英言語文化学会事務局

4. 名簿記載事項について (重要)

名簿記載事項に変更がある方は、事務局までお知らせください。特にメールアドレスを変更されている場合は、すぐに事務局 (ajelcoffice@gmail.com) までお知らせください。事務局から案内や Newsletter をお送りするたびに、宛先不明で戻ってきってしまうメールが複数ございます。ご本人からお申し出がない限り、新しいアドレスにお送りすることができません。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

5. 第 20 回年次大会

第 20 回年次大会を次の要領で開催いたします。

日時：2025 年 6 月 14 日 (土) 13:00-17:00

場所：成蹊大学 (教室未定)、オンライン (Zoom) とのハイブリッド開催

テーマ：「グローバル社会をつなぐ言葉と文化～発想の違いとコミュニケーション」

プログラム

13:00 開会

13:00-13:10 会長挨拶

13:10-13:55 基調講演「日英の言葉と文化（6）」（サブタイトル未定）
奥津文夫（和洋女子大学名誉教授・本学会名誉会長）

13:55-14:10 休憩・情報交換

14:10-15:10 講演「未定」 水澤祐美子（成城大学准教授）

15:10-15:25 休憩・情報交換

15:25-16:25 講演「充実した人生を過ごす為の語学学習」
加藤忠明（江戸川大学名誉教授）

16:25-16:30 閉会の辞・諸連絡

16:30-17:00 会員総会

終了後、懇親会を開催します。

6. 定例研究会での発表者・講演者募集

定例研究会は、3月、9月、12月と、年3回の実施で、発表者および講演者を随時募集しております。自薦他薦は問いませんので、事務局までお知らせください。なお、発表は会員の方に限ります。

7. 紀要投稿予約について

2025年度は紀要を発行いたします。投稿を希望される方は、2025年6月30日までに事務局まで投稿予約のメールをお願いいたします。なお、投稿予約がなくても、投稿は可能です。詳細は事務局より既にお送りしている執筆要領、投稿要領をご覧ください。

編集後記

今年度より年1回の発行といたしましたが、ようやく皆様のお手元にお届けすることができます。年次大会と3回の定例研究会報告としております。なお、要旨については、発表、講演前にいただいているものを転載しております。

地球温暖化の影響もあり、春と秋が短い状況で、今年も急に寒くなったと思えば、夏日になったりしています。体調を崩しやすい時期となりますが、どうぞ皆様、ご自愛ください。（C.B.）

AJELC Newsletter 第67号

2025年3月31日発行

発行人：小川貴宏

編集：日英言語文化学会（AJELC）事務局（馬場千秋・福永堅吾）

発行所：日英言語文化学会

（〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 帝京科学大学 馬場千秋研究室内）

E-mail: ajelcoffice@gmail.com